

平成30年度

久米島町教育委員会の事務に関する
点検・評価報告書

令和元年9月

久米島町教育委員会

ま え が き

久米島町教育委員会では、子ども達が「島に誇り」・「心に夢」を持ち、「個性豊かで創造性・国際性に富む活力ある人材」を目指すことができるよう教育振興に努めております。

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規程に基づき、久米島町教育委員会の活動状況及び教育施策の実施状況についての点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに公表することとされました。

なお、点検・評価に当たっては、点検・評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する3名の方を外部評価委員に委嘱し、助言及び評価を求めることとしました。

久米島町教育委員会委員名簿

*平成31年3月31日現在

職 名	氏 名	任 期
委員	山元 朝弥	平成27年7月10日～令和1年7月9日
委員（教育長職務代理者）	儀間 剛	平成28年7月10日～令和2年7月9日
委員	高江洲眞知子	平成29年7月10日～令和3年7月9日
委員	宇江城 洋一	平成30年7月10日～令和4年7月9日
教育長	吉野 剛	平成30年7月10日～令和3年7月9日

外部評価委員名簿 (五十音順)

* 令和元年7月30日現在

役 職	氏 名
前久米島PTA連合会会長	宮原 忍
現久米島PTA連合会会長	吉原 昌司
現久米島西中学校学校評議員	國吉 佳代

I はじめに

1 点検・評価の導入の目的

教育委員会制度は、首長から独立した合議制の教育委員会が決定する教育行政に関する基本方針のもと、教育長及び事務局が広範かつ専門的な教育行政事務を執行するものです。このため、具体的な教育行政が執行されているかどうかについて、教育委員会自らが事後にチェックする必要があります。

このようなことから、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正において、教育委員会は、毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することが定められています。

町教育委員会は、この報告書を議会に提出するとともに、ホームページ等で公表し、町民への説明・責任を果たし、町民に信頼される教育行政を推進することを目的とします。

2 対象事業と点検・評価の方法

(1) 久米島町教育委員会が策定した「平成30年度久米島町教育委員会事務事業」において、主要な事業の取り組み並びに達成状況について点検・評価を行いました。

(2) 評価方法

教育施策の各項目について、達成度により内部（自己）評価しました。

・達成度（A～D）

A・・・十分達成できた

B・・・概ね達成できた

C・・・やや不十分である

D・・・不十分である

(3) 外部評価

点検・評価にあたり、点検評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する3名の方を外部評価委員に委嘱し、ご意見・ご助言をいただきました。

(4) 評価基準日

平成31年3月31日

(5) 評価実施日

令和元年7月30日

平成30年度 久米島町教育主要施策

久米島町教育委員会

教育主要施策の策定にあたっては、国や県の教育改革の動向、県の重点施策の基本方針等を踏まえ、「平成30年度久米島町教育主要施策」を定めました。

教育の目標

- ◆自ら学ぶ意欲を育て、学力の向上を目指すとともに、豊かな表現力とねばり強さをもつ、幼児児童生徒を育成します。
- ◆平和で安らぎと活力のある社会の形成者として、郷土文化の継承・発展に寄与し、国際化・情報化社会で活躍する心身ともに健全な町民を育成します。
- ◆家庭・学校・地域社会の相互連携のもとに、時代の変化に対応し得る教育の方法を追究し、生涯学習社会を推進します。

目標達成のための主要施策

学習指導の工夫・改善・充実

学校教育においては、幼児児童生徒一人一人に基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等の能力の育成及び豊かな心、健やかな体の育成など「生きる力」を育む学習活動を教育活動全体で充実させることが重要であり、自らの個性を生かし社会の変化に主体的に対応できる能力や創造性の基礎を培う育成を目指します。

この為、学校においては、児童生徒一人一人の実態等を十分把握し、個に応じた指導体制や指導方法、評価方法の工夫・改善を図るなど、授業作りスタンダードを徹底し全校体制による「わかる授業」の構築に努めます。

また町教育委員会においては、管内各学校が創意工夫を生かした特色ある教育課程を編成・実施できるよう各学校の実情に応じた適切な支援を実施します。

	主要項目	取り組み内容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
1	学力調査	1. 標準学力検査 * 小3～6年生、中全学年 2. 全国学力・学習状況調査 * 小6年生・中3年生 3. 沖縄県学力到達度調査 * 小3～6年、中1～2年	○標準学力検査の経年比較（教科総合正答率） 小学校3年生-0.6p、4年生+2.8p、5年生+0.4p、 6年生+1.7pであった。ほぼ前年度を上回っている。 ○全国学力・学習状況調査（小6年） 小算数についてはA、B共に全国平均を上回った。算数A 学については全国平均を2.5p上回っている。教科総合 校においても全国水準を維持している。 ○県学力到達度調査の平均正答率が県を上回ることが できた（小3国・算、小4算、小5理、小6算）。 ●県学力到達度調査において5年生が算数、国語と もに県平均を下回った（算数-1.4、国語-1.3）。 ☆各種調査の結果を分析し、回復指導について指導 助言を引き続き行う。	A	A
2			●標準学力検査の経年比較（教科総合正答率） 中学校1年生-0.6p、2年生-0.8p、3年生+3pであ った。中学校1年、2年生に課題が見られる。 中○全国学力・学習状況調査（中3年） 学数学はAB共に昨年度をかなり上回ることができた（昨 校年度比 A+9.3p B+7.2p）。 ○県学力到達度調査の平均正答率が県を上回ること ができる（中1数、中2国・数・社）。 ☆各種調査の結果を分析し、回復指導について指導 助言を引き続き行う。各中学校ブロックの学力向上 推進研修会を充実させた取り組みの実施。	A	A

3	学習支援員の配置	児童生徒一人一人に基礎学力を身につけさせることを目的に、小中学校に学習支援員を配置する。	○小学校に3名、中学校に4名の学習支援員を配置できたことで、落ち込みのある児童生徒に対し、きめ細やかな学習支援を行うことができ、学習に対する意欲を高めることができた。小学校では県学力到達度調査において7科目中5科目で県平均を上回った。	A	A
4	検定支援	1. 漢字検定 * 小学校2年生以上が実施 2. 英語検定 * 中学校生全員対象	○漢字検定 合格率62.5%（前年度比 -14.1%）。 ●当該学年修了程度の級は合格を目指すための漢字学習が必要。 ○英語検定合格率38.8%（前年度比 -5.6%） 3級合格者数14名（合格率32.6%）。 準2級合格者数7名（合格率20%）。 2級合格者数14名（合格率11.1%）。 ●合否結果をもとに、苦手とする分野の分析と対策が必要。	B	B
5	地域教育資源活用支援	地域の人材や地域環境等を活用した教育活動への支援	○全小中学校において各教科や領域、学校行事や地域行事等で地域人材を活用した。ほぼ昨年度並みの158時間活用した。 ☆活用例を紹介し、更に活用を広げたい。	B	B
6	久米島町学力向上教職員研修会	1. 教職員一人一人が研究授業及び授業研究会を通して相互的な研修を行い、それぞれの教師としての資質、授業力の向上に努める機会とする。	○中学校区学力向上推進ブロック研修会を実施し、研究授業及び授業研究会を実施した。各小中学校の全教職員が参加した。	A	A

6		2. 中学校区の幼小中連携研修会を開催することで「確かな学力」の確立へ向けての実践の共有化を図る。			
---	--	---	--	--	--

道徳教育・人権教育の充実

道徳教育は、児童生徒一人一人に豊かな心を育み、自他の生命を尊重する心を基盤に、美しいものに感動するなどの豊かな情操、善悪の判断などの規範意識及び公共の精神、健康・安全、規則正しい生活などの基本的な生活習慣を育むとともに、伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛する態度を培う。このため、学校においては、児童生徒の発達の段階に応じて、道徳的な心情や判断力、実践意欲と態度などの道徳性を培う道徳教育を、道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて計画的・発展的に指導を推進します。

人権教育は、生命を大切にし、自他の人格を尊重し、互いの個性を認め合う共生の心などの豊かな人間性を育むことを目指して行うことが重要であり、学校においては、人権尊重の考え方や共生の心について正しく身に付けさせる指導を充実させるとともに、日常的な関わりの中で、教職員、児童生徒相互の人間関係づくりに努めます。

	主要項目	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	担当
7	道徳・人権教育	1. 道徳の時間の指導の充実 ＊指導案を作成しての研究授業の実施 2. 全教育活動を通じて、道徳性や人権意識を身に付けさせる。	○全学級において道徳の授業を1回以上公開するよう周知し、実施した。 ○全小中学校の教職員を対象とした夏季研修会において道徳の授業づくりに関する研修会を実施した。指導要領の改定に伴う授業づくりについて多くの学びがあった。 ☆町内の小中学校は教職員の入れ替えが多く、2校目の勤務校にあたる若手の教職員が多い。道徳のみならず授業づくりについて指導助言を引き続き実施する。 ☆研修会で学んだことを授業づくりに生かすよう助言を行う。	B	B

たくましい心と体を育む教育の推進

幼児・児童・生徒の体力の向上と健康の保持増進を目指し、健康教育及び保健教育の充実を図ります。又、教育活動の基盤となる安全な生活の確保のために諸事業を展開し、生涯スポーツの基礎を培うと共に、体力の向上が図れるよう学校体育の充実に努めます。

	主要項目	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
8		体力・運動能力、運動習慣等調査の実施	○全国体力・運動能力等調査 小学校男子A評価全国と比べ+2.1p、女子+5.2p 中学校男子A評価全国と比べ+4.9p、女子+3.1p ●柔軟性（上体おこし、長座体前屈）については全国を下回っている。 ☆結果を各学校で分析し、体育の授業を中心とした授業改善に生かすよう助言する。	A	A
9	体力向上・健康保持増進	幼児児童生徒健康診断 *健康診断の結果を、健康管理システムを活用し、健康管理に努める。	○公立病院、各学校との連携が取れ、体制づくりが構築できている。 ○小学生の肥満度傾向は、平成28年度にいったん増加していたが、平成29年度に減少し、平成30年度もわずかであるが減少している。 ●中学生の肥満度傾向について、平成30年度は4%増加している。 ●小学校の視力が県・全国と比較すると平均よりも低い。	B	B
10	夏休み 水泳教室	夏季休業期間中に、泳力の向上を	○夏休みに4日間の教室を開催した。計35名の児童が参加した。		

10	<p>図ることを目的に、B & G プールを活用し、希望者のみ午後に開催する。</p>	<p>○水泳教室及び水辺の安全教室を行い水難事故への安全啓発を行った。</p> <p>●水泳教室の周知が遅れ参加者が少なかった。早めの計画、通知が必要である。</p>	B	B
----	---	---	---	---

キャリア教育の充実

児童生徒に夢や希望を育ませ、時代の変化に力強くかつ柔軟に対応し、主体的に生きることができる自立した社会人・職業人の育成を図ります。

	主要項目	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
11	<p>ジョブシャドーイング 学習 職場体験学習</p>	<p>町内各小中学校の児童・生徒が職場を訪問し、仕事の観察や体験をする。</p>	<p>○平成24年度より、産学官・地域が連携するしくみを構築しキャリア教育の充実を図っている。</p> <p>○久米島町グッジョブ連絡協議会との連携により、全小中学校において町内事業所の職場見学・体験を行うことができた。</p> <p>☆学校におけるキャリア教育の充実を図るため、町内教職員研修を実施。</p>	A	A

食育の推進

食生活を取り巻く社会環境の変化などに伴い、食生活の乱れ、肥満・過度の痩身など生活習慣病と食生活の関係が指摘され望ましい食習慣が求められています。学校教育全体を通じた食育の推進に努め家庭や地域、関係機関と連携し児童生徒の健全な成長を支援します。

	主要項目	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
12	給食センター運営	児童・生徒の健やかな成長を育むため、安全、安心な給食を提供している。	<p>○小学生467名・中学生227名・教職員135名に、年間を通して安定的に学校給食を提供できた（台風により、2日欠食）。</p> <p>○各小中学校からの要望により、保護者の給食試食会及び食育講話、町内各小中学校全学級に学活や家庭科、給食時間を利用し「食に関する指導」の授業が実施できた。</p> <p>○近年増大する災害時を想定した非常食体験や、地元産海洋深層水栽培野菜、海産物（モズク、アーサ）、紅イモを使った地元産デザートなど地場産物を活用した給食の提供ができた。</p> <p>●学校給食用牛乳の配達業者の保管冷蔵庫の故障が相次ぎ、その対応策を求められている。</p> <p>☆学校給食センター内に牛乳保管用冷蔵庫の設置を行い、各小中学校への配送ができるような準備を行っている。</p> <p>●老朽化している施設の移転計画（特に用地）の策定。</p> <p>☆公共施設等総合管理計画において、学校給食センターは移転更新となり、「具志川庁舎周辺土地利用計画検討委員会」で、配置計画を決定し、町長への答申をおこなっている。</p>	B	B

特別活動の充実

児童生徒が充実した学校生活を送り、学級や学校での集団活動を通してより良い生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育むとともに個性の伸長に努めます。

	主要項目	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
13	島外派遣費補助	中体連・中文連大会での島外活動時において、一人5千円の助成をしている。尚、スポーツ大会においては上限人数枠を設定し助成。(県大会は一人8千円助成)	○地区大会等：生徒1人につき、航空(船)賃5,000円/上限、宿泊費3,000円/1泊上限を補助。 ○地区代表(県大会)：野球・陸上・駅伝の大会で生徒1人につき、航空(船)賃全額、宿泊費5,000円/1泊上限を補助。 ○64回(体育会系55回・文化系9回)の大会に参加し、延べ人数611名へ補助金を交付した。	A	A

国際理解・外国語教育の推進

急速な国際化に伴い、異なる文化を持った人々と共に協調して生きていく資質や能力を育成することが求められています。学校においては小学校段階からの国際理解教育の充実を図り、あわせてコミュニケーションの手段としての英語に慣れ親しませ、小・中学校の学びの連続性を踏まえた英語によるコミュニケーション能力の育成を一層充実させ、これからの社会で羽ばたけるよう育成を図ります。

	主要項目	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
14		1名のALT(外国人英語指導助手)が、町内の全小中学校で、学級担任・教科担任の助手として、英語学習の指導を行う。	○JTEプログラム派遣事業により、派遣されたALTを町内小中学校に計画的に配置し、生きた英語を体験させている。	B	B
15			○町内で英語指導員を配置し、学級担任とTTの授業形		

15	国際理解教育	<p>小学校の英語学習の助手として、1名のJTE（日本人英語指導助手）が、6小学校の3年生以上の学年で英語指導を行う。</p>	<p>態で外国語活動を実施している。</p> <p>○打ち合わせの時間を週時程に位置づけ、授業づくりを行っている。</p> <p>●JTE一人で6校を担当するのは、持ち時間が多く、負担感がある。</p> <p>☆令和元年度は英語指導員を1人増員し、2人体制で授業を行う予定である。</p>	B	B
16		<p>国際化・高度情報化時代に対応できることを目的に、町内の英検3級以上の中学生から募集し、選考された3名をアメリカにホームステイさせる。</p>	<p>○7月27日～8月19日の日程で、アメリカカリフォルニア州で開催されたホームステイプログラムへ3名の生徒を派遣した。各々が目標・目的を持ち異国での経験を通して、言語や文化に対する関心と理解の深まりが見られた。</p> <p>○応募者数が前年度3名から9名へと増えた。</p> <p>●応募数が一方の学校へ偏りがちで、両校からバランスよく応募を促せるよう学校と連携を取り周知したい。</p>	A	A

特別支援教育の充実

児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取り組みを支援するという視点に立ち、児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め生活や学習上の困難を改善又は克服するための適切な指導や必要な支援を行うものです。学校においては、校内委員会の設置や特別支援教育コーディネーターを中心とした支援体制を構築し児童生徒の状態、特性や学級の実態に即した教育課程を編成するなど特別支援学級の教育課程の充実を図る組織的な取り組みを推進します。

	主要事業	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
17			○校内委員会や外部専門家の活用等による、支援を要す		

17	教育支援委員会設置	特別な教育的支援を必要とする幼児・児童及び生徒のより良い就学支援を行うための調査・審議を行う。	<p>子どもに対する各学校での取組の結果、教育支援委員会での審議対象案件数が少なくなった。</p> <p>○保護者の同意のもと申請のあった14名の児童生徒全員の心理学検査及び審議について、時間をかけて実施できた。</p> <p>●臨床心理士が島内にはいないため、心理学検査の日程調整が難しく、検査を実施する児童生徒と保護者の負担も大きい。</p>	B	A
18	特別支援教育支援員の配置	特別な教育的支援を必要とする児童・生徒の教育活動等を支援するために、要請に応じて小学校、中学校に特別支援教育支援員を配置している。	<p>○小学校は11名、中学校は4名の支援員を配置できたことで、学習面や生活面において特別な教育的支援を必要とする児童生徒のニーズに応じた支援を行うことができた。</p> <p>○特別支援教育支援員の連絡協議会を定期実施することで、指導方法の情報交換ができ児童生徒に対する対処方法を共有することができた。</p> <p>●求められる支援内容が異なるため、連絡協議会や研修会実施により、現場での課題解決や資質向上のための取り組みを継続的に行って行く必要がある。</p> <p>●離島のため支援員となる人材の確保が困難である。</p>	A	A

情報教育の充実

高度情報通信ネットワーク社会においては、児童生徒がコンピュータやインターネットを活用し主体的に対応できる「情報活用能力」を育成することが求められています。必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況を踏まえて発信・伝達できる能力の育成をするため、情報教育の一層の改善・充実を図ります。

	主要項目	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
19	小・中学校 情報教育	情報活用能力を育成する為 の小中学校の情報機器の整備。	○ネットワーク機器の更改を実施し、小中学校の通信環境を向上させることができた。 ○小学校3校にタブレット端末を導入し、情報教育の環境整備を進めることができた。 ●小学校の学習用大型表示装置に故障が多く、授業で使用できないことがあった。 ☆小学校の大型表示装置については、段階的に機器の更改を実施していく。	B	B

環境教育の充実

環境教育は、環境の保全など持続可能な社会の創造に向け、児童生徒が環境に対する主体的な行動と実践的な資質や能力及び態度を身に付けるために行う必要があります。学校においては、地球規模の視野に立ち、身近な環境や環境問題に対して関心を持たせ、教育活動全体を通し、人間と環境との関わりについて理解を深める取り組みの推進を図ります。

	主要項目	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
20	環境教育	クメジマボタルの生息環境と生態を知り、森と水辺環境の大切さを知る学習。	○ホテル館とホテルの会と共催で、4月はクメジマボタル、5月は陸生ホテルの観察会を開催し、両日で約50名が参加した。ホテル観察に先立ちホテルの生態や生息環境についてホテル館で事前学習を行い、環境保全や希少生物の保護の大切さを学んだ。また、ミーフガーでのクメジマボタル観察会は、例年より多く観察することができた。	A	A

生徒指導の充実

生徒指導は、一人一人の児童生徒の個性の伸長を図りながら、同時に社会的な資質や能力・態度の育成と、個々の児童生徒の自己指導能力の育成を目指し、教師と児童生徒の信頼関係及び児童生徒相互の好ましい人間関係を育てるとともに、児童生徒が主体的に判断、行動し積極的に自己を活かしていくことができるような生徒指導の充実を図ります。

	主要項目	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
21	スクールカウンセラーの配置	町や県から配置されたスクールカウンセラーを中学校を中心として派遣し、不登校や問題等がある児童生徒への相談支援を行っている。	○町スクールカウンセラーとして、月12日の1日4時間を目安とし、各小中学校の要請により配置した。 県派遣スクールカウンセラーは、小学校全6校に対し年間22回(1校当たり3.6回)とし、中学校は1校当たり11回での配置を行った。 ●児童生徒の相談については、「不安」「無気力」「授業が理解できない」「家庭環境」などの要因が複数重なることが多く、その解消には、本人や担任との継続した相談・支援が必要である。	B	B
22	児童・生徒の学校生活を把握する為のいじめ・不登校等調査の実施	毎月、いじめ・不登校等の調査及びいじめアンケートを実施し報告する。	い じ め ○アンケートを通じて小学校で55件、中学校で10件のいじめが認知され、関係機関との情報の共有や初期対応体制の確立に役立てることができた。 ○「複数の教員で認知を行う」、「いじめられた児童・生徒の被害性に着目して認知を行う」ことを指導した結果、単なる「けんか」が報告されないようになった。	B	B
23			不 ●小学校3名、中学校で8名の不登校者があった。		

23		登校	●不登校に当たらない長期欠席が不登校と報告されることがあったため、定義について周知する必要がある。 ○町教委・県でスクールカウンセラーを配置し、不登校児童・生徒に対するカウンセリング等の対応を行った。	C	C
24		問題の内容に関係する機関（福祉課、警察、県の児童相談所等）と連携し、適切な対応を取る。	○警察、社協、民生員とケース会議等を通じて情報共有を図り、連携して取組を行った。 ●不登校児童・生徒に対するスクールカウンセラーのニーズは高く、学校とより連携が深められるよう支援をしていく必要がある。	B	B

幼児教育の充実

幼稚園教育は、園生活全体を通して豊かな心情・積極的な意欲・健全な生活習慣、態度を育て、調和のとれた人格形成の基礎を培うものです。幼児に適切な環境を与え、遊びを中心とした総合的な指導を通して、幼児の健全な発育を促進しながら、保護者及び小学校との連携を積極的に推進します。

	主要項目	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
25	幼児教育	保護者の子育て支援として、午後の保育を希望する園児を対象に、仲里・清水幼稚園で預かり保育を実施している。	○預かり指導員が1名不足となったが、幼稚園教諭の協力を得ながら希望する全ての園児を預かることが出来た。 ○免許を保持する預かり指導員の確保ができています。 ○預かり指導員が病気等で休んだ場合、幼稚園教諭がフォローに入っている。 ●利用人数が年々増加傾向にあり、預かり指導員の確保が課題である。	A	A
26		幼稚園にヘルパーを配置し、	○清水幼稚園、仲里幼稚園にヘルパーを配置し、それぞ		

26	安全面等への配慮を行っている。	れの園において支援ができた。 ●よりよい保育ができるよう、教育委員会や園によるヘルパーの指導力向上のための研修が必要である。	A	A
----	-----------------	---	---	---

青少年の健全育成

豊かな心と健全でたくましい青少年を育成する為、学校、家庭、地域社会がその教育機能を発揮し、生活体験・自然体験の機会を多く持つ中で、ボランティア活動の活性化に務めます。また、地域社会が「地域の子どもは、地域で育てる」意識を高め、子どもの教育に多くの大人が関わり、地域の教育力の活性化・高揚を図る諸施策を推進し、地域青少年の個性伸長や協調性涵養のために、青少年の社会参加や体験活動の拡充を図り、文化活動への参加の気運を高めるために地域の芸能・文化活動等の促進を図ります。

	主要項目	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
27	児童・生徒交流	<p><小学校・なかさと交流> 2月に新潟県十日町市に5年生14名を派遣、7月には本町において受け入れ交流を図る。</p>	<p>○自然環境、気候風土の異なる新潟県十日町市を訪問し様々な体験を通して視野を広げることができ、同市児童との交流を深めることができた。訪問前の事前学習においては、久米島代表としての自覚を持ち、久米島の紹介資料の作成や発表の練習に積極的に取り組みむ姿勢が見られた。 ●児童数の減少に伴い、平成31年2月、第56回冬の交流より2名減の12名での交流をスタートさせた。今後は十日町市の引率者の減に伴い、学校交流の持ち方についての検討が必要になる。</p>	A	A
28		<p><中学校・佐賀市交流> 12月に佐賀市へ中学1年生を16名派遣、8月に佐賀市か</p>	<p>○夏の交流では、事前学習・施設見学を通して久米島について学び直すきっかけとなった。 ○冬の交流では、交流生同士が積極的な交流・行動が見られた。</p>	B	B

28		らの中学生を受け入れ交流を図る。	●施設見学での聞く態度、時間通りの行動ができない場面が見られたため、事前学習での指導を徹底する。		
29	夏休みものづくり体験教室	夏休みに、昔ながらのおもちゃ、最近の手作りの道具等、バラエティーにとんだものづくりに親子で参加している。	○身近で手に入りやすい素材を利用し家庭で誰でも簡単にできるものづくりを楽しむことができた。(ホバークラフト、モビール、小物作り、フォトフレーム、ビーズ教室) ○参加費を無料とし、また各ブースで時間を設定、受付を行い参加者が計画的に参加できた。 ●材料が不足し、後半の組では作品に満足できない状況があった。	A	A
30	ヤングフェスティバル	子ども達が各教室等で学習してきた成果を披露する発表会。 *唄・三線、舞踊、ピアノ、空手、伝統芸能等	○14団体、約180名の幼児・児童・生徒が参加し、日頃の練習の成果を発表し、出演希望団体は全て出演することができた。 フェスティバルの出演・運営を幼児・児童・生徒が行う(アナウンス、舞台裏方は久米島高校生徒会が協力)ことで自主性や想像力を育むことができ、「若者の祭典」として定着してきている。 ●例年、開催時間が長時間となる課題があるが、今年度も3時間半近くかかったため、各団体の持ち時間等の調整が必要である。後半、観客が減る傾向があるためプログラムを工夫する。	A	A
31	久米島町	本の楽しさ・読み聞かせの楽しさを保護者に伝え家庭で	○沖縄県子どもの本研究会会員による絵本読み聞かせの実演や本の販売のほか、絵本を通じた子育て支援を行う「ブックスタート」に関する講演会を実施し、読書に親		

31	子ども読書まつり	読書の環境づくりができることを目的として、改善センターにて開催している。	しむ機会を提供することができた。 ○複合型施設（図書館）と電子図書館に関する取組・進捗状況を紹介することで、周知を図ることができた。 ●町広報誌やラジオ広報などを通して早めに周知することで、参加者を増やしていく。	A	A
32	久米島現代版組踊り	<p>地域の希望・宝である子ども達（中・高校生）が、生まれ育った地域の文化・歴史に誇りを持ち、郷土の歴史を題材としたストーリーを現代版組踊りとして舞台発表を行っている。</p> <p>*一括交付金を活用 ・久米島公演 平成30年9月1日・2日開催 観客：360名＜1日目＞ 観客：389名＜2日目＞</p>	<p>○6年目となり、島内での認知度も高まり地域の人からの期待を受け参加者の意欲も向上している。小学生まで参加対象の幅を広げメンバー確保ができた。</p> <p>○島内指導者の育成を強化し、自主運営に向けた取組を行った。</p> <p>○徳之島と共催により現代版組踊りの聖地肝高ホールにて「島シリーズ」公演を行った。</p> <p>●自主運営に向けた取組が引き続き必要である。</p>	A	A

社会教育の充実

町民の社会教育活動を支援し、時代のニーズに即した学習活動に対応するため、施設の整備や社会教育指導者、体育指導員の養成・活動を充実させ、多様な学習機会の提供を図ります。また、家庭教育や地域活動を支援し、各関連機関との連携に務め地域の教育力の向上に努めます。

	主要事業	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
33	久米島町 新春書道展	文字文化を通して忍耐強さ、素直に学ぶ心の育成及び町内の書道の普及を目標に実施している。	○島内の小中学生から471点、一般（高校生含）が16点の応募があった。児童生徒数が減るなか前回と変わらない出展数となっている。 ○本審査会終了後に、高校生と一般の作品について特別審査員からの指導の時間を設けることができた。 ●一般の部では、応募のほとんどが高校生の作品であるため書道文化を広げる工夫が必要である。	A	A
34	放課後子ども教室	スポーツ・文化・読書・体験活動等により放課後の子ども達の安全・安心な居場所の確保と学習環境づくりを目的として開催している。	○放課後や週末に学校施設等を利用して子ども達が安全で安心できる居場所作づくりを目指し、5小学校で11教室（学習支援4、スポーツ活動7）を実施した。多くの地域・保護者の方々の協力が得られている。 ●学習支援教室は4小学校（昨年度より1校減）のみで実施されているが、家庭学習の習慣を定着させるためにも今後、全小学校で開催できるよう学校・地域と情報交換をしていく必要がある。	B	B

スポーツの振興

生涯スポーツ、健康体力の基礎となる学校体育の充実、生涯スポーツ社会の実現をめざす為、施設・設備の充実を図り、スポーツの普及振興、健康保持・増進に務めます。また、生涯にわたり健康で心豊かな生活を営むためには、自発的・自主的な運動の日常化や健康生活を實踐できる能力の育成が重要であり、地域社会及び関係団体との連携を密

にし、支援体制の充実・強化を図ります。

	主要事業	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
35	町民運動会	町民の親睦と体力増進を目的に全町民を対象に実施	●台風の接近により中止となった。次年度は予備日を設け大会を開催できるようにする。	—	—
36	学校施設の開放 (運動場・体育館)	町民の生涯スポーツ活動の推進と健康増進を図ることを目的に、夜間に学校施設を開放	○3校（比屋定小・久米島西中・球美中）を開放して各利用団体がスポーツを通して健康増進を図っている。 ●利用団体の町民の健康増進への意識を高める取組が必要である。	B	A
37	B & G 海洋センタープールの開放	B & G プールを開放して、町民の健康づくり、子どもの水のふれあい及び学校授業で活用している。	○B & G 財団の推奨する取組、本町海洋センターでの取組を行うことで海洋センター評価がB→Aへ上がった。 ○小学校3校、幼稚園、保育園がプールを利用し水泳指導に活用した。 ●職員の雇用が遅れ利用者数が減少した。 ●職員の雇用確保が課題である。	A	A

生涯学習の推進

生涯学習の推進にあたっては、町民一人一人が学習の各時期において生きがいのある人生を過ごすことができるよう、学習形態と施設の整備拡充や諸施策を展開します。最近の調査によると国民の3分の2以上が「生涯学習」に関心を示しており、人々がいつでも自由に学習機会を選択し、学習活動を楽しもう・生きがいを見いだそうという学習

意欲が高まりつつあるので、的確にニーズを把握し環境を整備するとともに拡充を図ります。

	主要事業	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
38	三線教室	沖縄が世界に誇る三線を基礎から楽しく習得する事を目的に、初心者向けの教室を実施している。	○全15回の教室で三線と沖縄の音楽に触れ伝統文化に親しむきっかけとなった。 ●26名の受講応募があったが修了者が13名と少なかった。	B	B
39	移動図書館 (県立図書館)	図書館のない地域を対象に、県立図書館が図書の展示・貸出を行う移動図書館を開催している。 * 2回実施	○昨年同様多くの町民が利用(利用者数210人)し、約1,500冊余りの本が貸出された。移動図書館を通して、町民へ読書の機会の提供と、読書を通じた調べ学習の支援を行うことができた。 ●未就学児を持つ父母が安心して本を借りられるようファミリーサポートを活用したい。	A	A
40	電子図書館	内閣府と連携し、図書館や本屋がないなど情報格差が大きく、読書機会が少ない沖縄県の離島地域の課題解決につなげるため、電子図書館を使った実証実験(3ヵ年)を実施する。	○PC, スマートフォン等を活用し、いつでもどこでも電子書籍を読むことができ、読書機会を提供することができた。 ○電子図書館利用登録者数が約290人で、他自治体の事例も含めると人口比としては高い割合である。 ●30, 40代と比較して、若年層や50代以上の利用が少ない。利用促進を図るため、電子図書館に関する周知を図るとともに、通信状況の改善やタブレットを活用した利用促進に努める。	B	B

文化・文化財の保存継承

町民が等しく郷土の文化にふれ、文化財に対する理解を深めるとともに、豊かな文化生活の形成に資するために、文化財の保存・活用及び芸術文化の振興を図ります。このため、町の史跡等の復元整備をはじめ、国・県・町指定文化材の環境整備を推進するとともに、建造物、美術工芸品、史跡、名勝、天然記念物等の調査、また無形文化財、民俗文化財の継承者養成に努めます。

	主要事業	内 容	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
41	収蔵資料の管理・活用	収蔵資料の適正管理・公開活用を図るため、資料管理のデータ化を行う。	○前年度の博物館機能強化事業の取り組みをもとに、平成31年度の事業実施に向けて申請事務代行及び工事施工業者の公募を行い、企画審査の上、業者を決定した。 ●資料のデータ化は博物館機能強化事業終了後の令和2年度から再開し、取り組みを進めて行く。	B	B
42	具志川城跡保存修理・整備	具志川城跡の適正な保存・活用を図るため調査を実施し、城跡を修復する。	○当初予定の入口階段の設置を延期し、崩落した石垣の解体工事（落石除去）・入口遺構の解説版設置を行った。 ●現状の設計では発掘された遺構を傷つける可能性があり、再設計が必要。 ●平成18年度に整備した石積が梅雨の大雨後に崩落した。石垣の修復には複数年要する見込みであり、整備計画を見直す必要がある。	C	C
43	町史編集	地域文化を育み、郷土に対する関心と愛着をより深めるため、歴史と文化を科学的に解明する町史編集を行う。	○編集委員会・専門部会を開催し、計画的に編集作業を進めている。刊行計画は通史編Ⅰ（令和9年度）・通史編Ⅱ（令和3年度）・資料編全6巻を令和2年度～令和7年度にかけて刊行する計画に改めた。 ●令和2年度刊行予定の資料編1について、著作権等の	B	B

43			課題に早急に取り組む必要がある。令和3年度刊行予定の通史編Ⅱについて、関係課との調整等、取り組む必要がある。		
44	文化財管理	数多くある指定文化財の適正管理により、学習や観光への活用を図る。	<p>○石垣に取りついた樹木の除根と敷地内の樹木の剪定を行い、保護と美観維持に努めた。</p> <p>○歌碑・石碑の清掃については、計画に沿って宇江城城跡と天后宮の解説版の清掃と墨入れを行った。今後も計画的に実施して行く。</p> <p>●県指定の宇根の大ソテツの一部が壊死を起こしていたため、樹木医の診断により壊死部分の除去処置を施した。はっきりとした原因は不明で、今後注意深く経過観察を要する。</p> <p>●県指定文化財天后宮の雨漏りが確認された為、次年度原因調査・修繕を行う。</p>	B	B

教育委員会の活動状況について

(1) 教育委員会会議の開催状況

教育委員会会議は原則として毎月10日を基本に定例会を開いています。平成30年度は16回(総合教育会議、臨時会を含む)開催しました。

(2) 教育委員会会議以外の活動状況

○ 研修会 (3回)

沖縄県市町村教育委員会連合会定期総会及び研修会 (平成30年5月)

沖縄県市町村教育委員研修会・那覇地区市町村教育委員会連合会研修会 (平成30年10月)

市町村教育委員会教育委員・教育長研修会 (平成31年2月)

○その他活動状況（各種行事等への出席）

年度	月	行 事 名
30	4	各小学校入学式・各中学校入学式・久米島高校入学式
	4	新任教職員歓迎会
	5	久米島PTA連合会定期総会
	5	小中学校学校訪問（6小学校、2中学校）
	6	西中ブロック学力向上推進研修会
	6	球美中ブロック学力向上推進研修会
	6	なかさと交流
	7	各幼・小・中運動会（9月）
	8	佐賀市・久米島町中学生交流
	9	久米島PTA連合会研修
	9	現代版組踊り「笠末若茶良」久米島公演
	10	久米島地区中学校意見発表大会
	11	久米島地区小学校童話・お話大会
	11	中学校合唱コンクール
	11	小中学校学校訪問（6小学校、2中学校）
	12	久米島町・佐賀市交流会（冬交流）
31	1	町新年会
	1	町成人式
	1	久米島町新春書道展

31	2	なかさと交流報告会
	2	町ヤングフェスティバル
	3	小・中・高卒業式

《外部評価委員の意見》

【学力調査】

それぞれの調査で概ね対前年や、県・全国平均を上回る結果が出ており、児童生徒の全体的な学力向上が認められます。とりわけ、中学校の好成績については、小学校からの持続した取り組みの成果だと考えられ、今後も継続されることを期待します。

【検定支援】

英語検定において、難易度の高い等級の合格者を多く輩出したことは大きな成果です。教育委員会が主催する海外ホームステイ事業が生徒の意欲を引き出す誘因となった事例もあり、今後も他の事業と連携した取り組みが行われることを期待します。

【久米島町学力向上教職員研修会】

幼稚園、小学校、中学校が情報を共有し、持続的な学習支援を行っていく上で、非常に有意義な取り組みであると考えます。ただし、研修会の目的や意義が保護者に十分に伝わっていないため、今後この取り組みがより周知されていくことを求めます。

【体力・運動能力、運動習慣等調査の実施】

柔軟性の低下については、競技の指導者からも指摘があり、気がかりな傾向です。子ども達の怪我の予防の観点からも改善に向けた取り組みを求めます。

【幼児児童生徒健康診断】

肥満度傾向や視力の低下は、家庭生活の乱れも要因と考えられます。児童・生徒だけではなく保護者を含めた取り組みが行われるよう求めます。

【放課後子ども教室】

放課後子ども教室は「子どもたちの安全・安心な居場所の確保」が主な目的です。競技性の追求や技量の向上が過度なものとならないよう適切に運営されることを求めます。

【B & G 海洋センタープールの開放】

人手の確保が難しい中で海洋センターからの施設評価が向上したことは称すべきことですが、指導員の配置や施設の清掃・修繕等で

プールの利用開始までに時間を要するという課題も見受けられます。今後改善が図られるよう求めます。

【電子図書館】

利用が少ない世代については、電子図書館を利用するための端末を持っていないことが利用率低下の一因と考えられます。より手軽に利用できる環境の整備が進められることを期待します。

【総括】

・町民と関わりの深い有意義な取り組みが多数行われています。今後はこれらの活動やその成果がより広くへ浸透し、町民からの一層の理解や協力が得られこと期待します。

・広範囲に渡る多数の取り組みを限られた人員で行っており、職員の負担が懸念されます。教育委員会の取り組みが安定的に継続して行われるためにも、業務量に見合った適正な人員配置のもとで事業が実施されることを求めます。